【関関同立 即日入試分析＆出題予想2022】

《2/1 立命館大学 全学統一方式》

★本日(2/1)の入試分析★

Ⅰ 《民主主義と選挙》

1955年からの体制がリード文に据えられ、「日本社会党」と自由民主党の統合が問われた。これを「保守合同」と呼ぶ。こうして広い階級からの支持を得る「包括政党」となった。総裁選出の際に重要となる「派閥」は押さえておきたい。金権政治について1976年は「ロッキード事件」、1988年は「リクルート事件」、1992年は「佐川急便事件」であった。細川護熙は「日本新党」の議員。「聖域なき構造計画」で知られる小泉純一郎も登場。「ねじれ国会」は容易か。2009年の「民主党」政権への政権交代は関西大学でも出題が見られた。「名望家政党」から「大衆政党」への流れもプリントをやっていれば心配ご無用。出題予想24分類から大的中でした🎯

Ⅱ 《国際的なグローバル化と地域包括的な経済連携》

1958年から1961年にかけての長期景気拡大期は「岩戸景気」と呼ばれる。池田勇人の「国民所得倍増計画」は十八番と言っても過言ではない。「狂乱物価」や 1993 年1月に発足した ASEAN 域内の経済協力推進を図る「AFTA」、1989年に発足した「APEC」などが出題された。国際機関への拠出金は「第二次所得収支」に分類される。M3のマネーストックについては、最も多いものが「預金通貨」、次に続くのが「準通貨」、その次が「現金通貨」、最後が「CD」となるが、難解であったか。1973 年から始まったのは「東京ラウンド」、1964年の「IMF8条国」もプリントからの出題。「日米包括経済協議」や「ネガティブ・コンセンサス方式」の正答が勝負の分かれ目。

Ⅲ 《資本主義経済の成立と歩み》

資本主義経済下での契約のあり方について問われることになった。「日清戦争」や生産手段の社会的所有に関して「ソ連」、「労働の搾取」などが空欄補充で登場。「大きな政府」と「小さな政府」やそれぞれの主義についての分類は出題予想24分類から大的中🎯マニュファクチュアから「工場制機械工業」への発展は押さえておきたい。工場法については「女性の労働を禁止した」とある選択肢が謝り。1919年「ILO」は容易か。中国の「社会主義市場経済」やマルクスの「第1インターナショナル」は文字数からも推測可能か。

©北村瑞貴の政経塾2022

★明日（2/2）の出題予想★

Ⅰ 《社会保障のあゆみ》

イギリスのエリザベス救貧法からの社会保障の歩みや、アメリカの社会保障法など、海外の事柄についても出題可能性がある。日本国内との比較をはじめとして、年金などとの融合問題となることが予想される。社会福祉についても、バリアフリー・ユニバーサルデザインなどの近年特有の語彙が出題される可能性も否定できない。幅広く社会保障に関して見直しておこう。

Ⅱ 《消費生活と近年の消費問題》

人が社会生活を営むに際し結ぶ契約は、公の秩序や強行法規に反しない限り、当事者が自由に締結できるという民法上の基本原則である契約自由の原則をはじめ、市場の失敗についてもチェックしておきたい。また、市場の失敗の例としては、ガルブレイスが唱えた依存効果やデモンストレーション効果が要注意。さらに、外部不経済でもある公害を話題に、PPP（汚染者負担の原則）にも注目しておきたい。

Ⅲ 《世界の貧困化と食糧問題・農業問題》

貧困を背景に、経済的な事柄と関連した語彙や人物、年号が多く出題される可能性がある。さらに、環境は外すといえども、SDGs（＝「持続可能な開発目標　17 個の分類）は狙い目。農業に関しては、1942 年の食糧管理法をはじめとした法律に加え、2018 年廃止された減反政策、ウルグアイラウンドで受け入れた・ミニマムアクセスに注意。ラウンドの内容にも目を通しておくこと。マルサスの『人口論』要注意！狙い目だ。

©北村瑞貴の政経塾2022